

5 - 13 駿河トラフ，房総沖等の海底地形・地質構造調査速報

Seabottom Survey in the Suruga Trough and Offing Boso Peninsula.

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

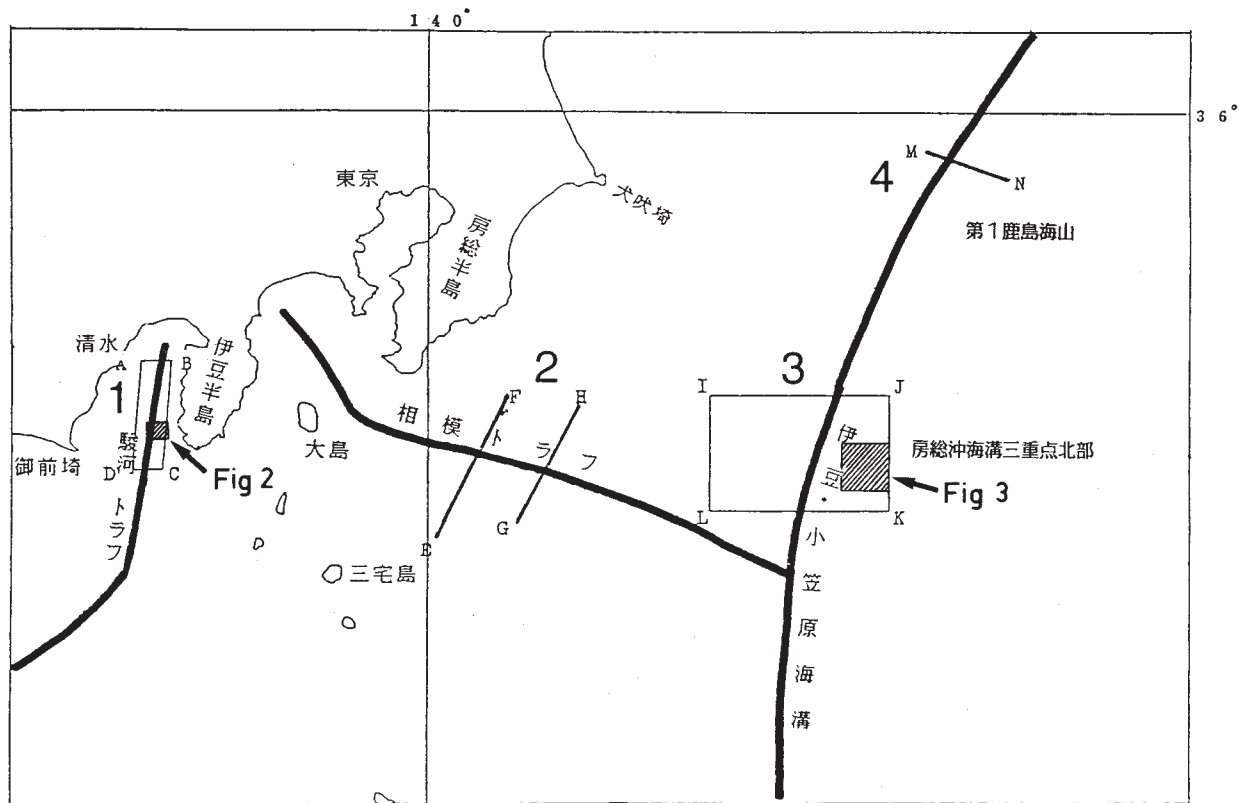
水路部では，昭和 60 年 7 月，測量船「拓洋」によって駿河トラフ，相模トラフ，房総沖海溝三重点北部及び第 1 鹿島海山（第 1 図）において海底地形・地質構造調査を実施した。

各海域で行った調査項目は次のとおりである。

- (1) 駿河トラフ……シービームによる精密海底地形測量，測位は電波距離測定機（位置精度 3m 以内）を使用
- (2) 相模トラフ……深海用音波探査装置（12ch）による地質構造調査
- (3) 房総沖海溝三重点北部……シービームによる精密海底地形測量，深海用音波探査装置（1ch）による地質構造調査，地磁気，重力
- (4) 第 1 鹿島海山……深海用音波探査装置（12ch）による地質構造調査

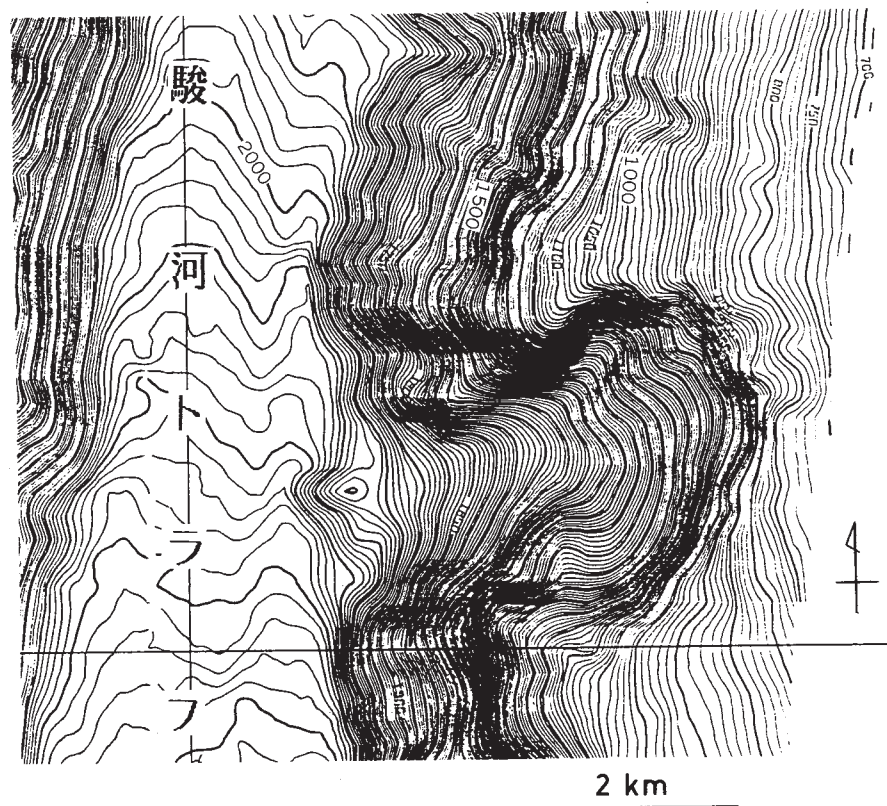
駿河トラフ東側斜面には，トラフ底に開口する馬蹄型の谷があり，その末端には小さなマウンドも認められる。この地形は地すべりによって形成された可能性がある（第 2 図）。また，房総沖海溝三重点北部海域には，海溝海側斜面に海溝軸と斜交する北北東－南南西方向の数条の断層崖が認められた（第 3 図）。図の右下には，この断層によってブロック化した海山がみられる。

駿河トラフ及び房総沖海溝三重点北部海域の海底地形は，これによって詳細に明らかとなった。なお，地質構造等の結果はまとまりしだい報告する予定である。



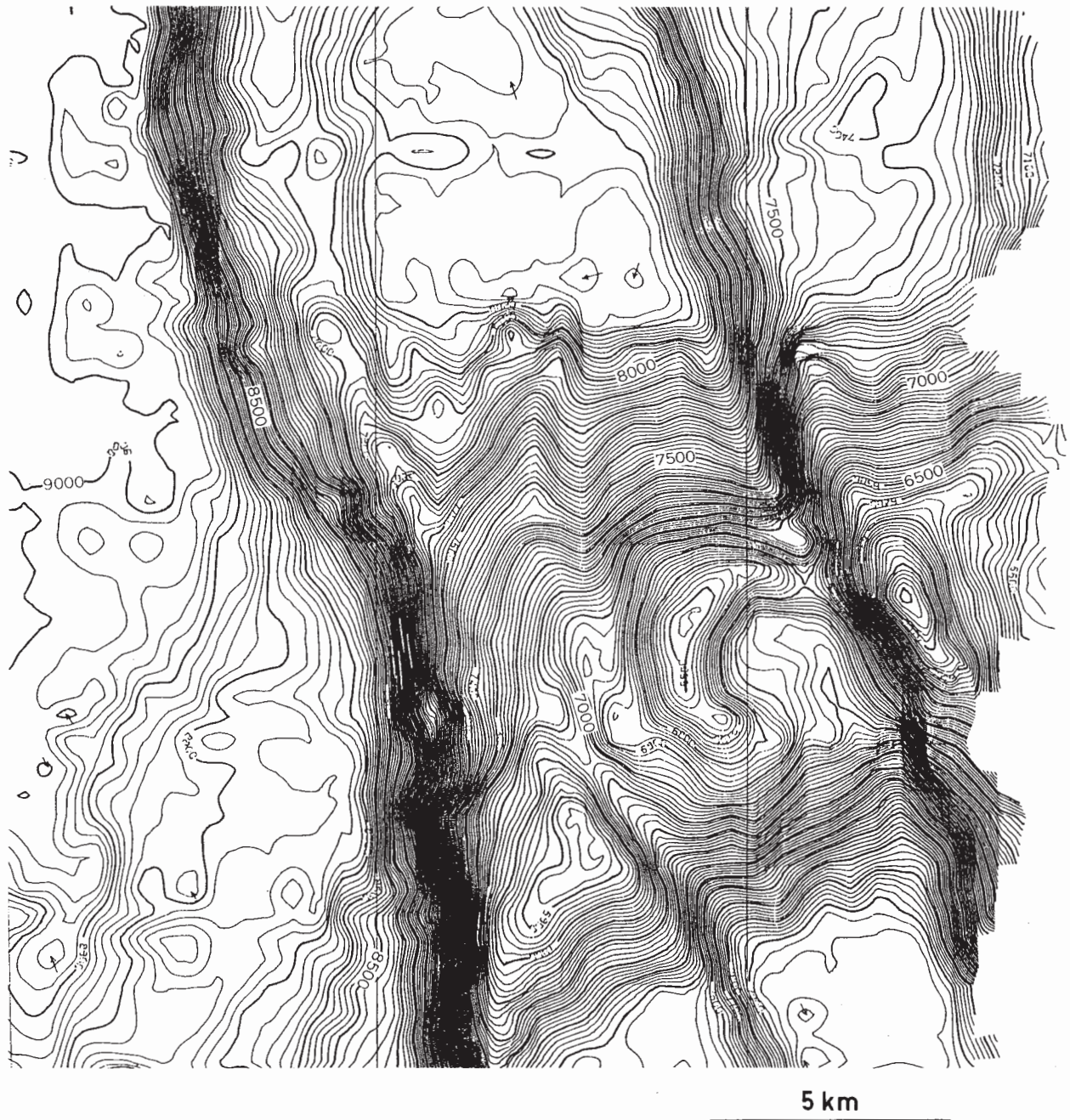
第1図 調査の区域及び測線

Fig. 1 Surveyed boxes and lines.



第2図 駿河トラフのシービーム海底地形図 等深線間隔は10m

Fig. 2 Bathymetry of the Suruga Trough by multi-beam sonar.



第3図 房総沖海溝三重点北部のシービーム海底地形図 等深線間隔は20m

Fig. 3 Bathymetry of the northern part of the tripple junction of the plates offing Boso Peninsula by multi-beam sonar.